



日本バプテスト連盟 東熊本キリスト教会 牧師
 熊本YMCA常議員

み かみ まこと
 三上 充 さん

それでも、希望はある。

牧師になるという人生の選択

「やっぱり、キリスト教を伝えるなら牧師なんだ」。奇しくも、教師を辞めることが、牧師になるという人生の選択に向けた第一歩となりました。2014年、三上さんは西南学院大学神学部編入。そこで4年間学んだ後、かつてサラリーマン時代に挫折を味わった地である熊本で牧師になりました。

現在は、熊本YMCAの運動を支える常議員を務めるほか、YMCA学院で非常勤講師としてキリスト教の講義も担当しています。「私の講義内容はあまり『伝統的』ではないかもしれませんが。たとえば聖書に書かれている内容が全て、あらゆる時代状況と文化を超えて普遍的に『正しい』とは限らない。聖書には現代という文脈では適切でない内容だって書かれているかもしれない。聖書だってつっこみを入れながら読んでいいんだよ、という話もします」。一方で、「生まれる前から教会に通っていた」という三上さんが当たり前のように思っていた聖書の内容でも、学生たちからはとする質問をされることがあります。「私自身が学ばされています。教会でも“キリスト教の話は初めて”という人がいらっしゃるがあるので、どうやって伝えていくのか、身が引き締まりますね」。



生きづらさを感じる人たちへ

生きづらい世の中でも、聖書を通して希望を持ち、生きていくのも悪くないと思ってもらえるように意識しているという三上さん。「希望を持ちにくい雰囲気」が世の中に満ちているな、と感じています。将来に対する希望や生きることそのものへの希望も。日本では人口減少に伴って所得が下がっていくであろう中で若者は生きていかなければいけません。自己責任や生産性と言われて、経済的な価値を生み出せなければ必要とされない風潮の中、高齢者にも生きづらさを感じさせているのではないかと三上さんは言います。「でも、そんな中でも、なお希望があると私は信じて、それを伝えたいと思っています」。

キリストの降誕を祝うクリスマスが近づいています。生きづらさを感じる人たちに向けて、三上さんからメッセージをいただきました。

闇の中を歩んでいた民は大いなる光を見た。／死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝いた。(イザヤ書9章1節 聖書協会共同訳)

「私は、クリスマスからふたつの希望を受け取っています。『神様は、どんな時でも共にいてくださるという希望』と『神様の出来事は、小ささや弱さのただ中でこそ始まっていくという希望』です。神様は、自らが人間となっても私たちと共に生きてくださった。しかも『赤ん坊』という他者からの助けを必要とする存在として生まれることによって、『共に生きる』という希望の出来事を決定的に始められる。この神様が、今日も私たちと共に生きてくださっています。神様が、小ささや弱さのただ中で、それでもなお今日も私たちと共に希望の出来事を始めつつあります。私たちはそれらを受け取っても良いのです」。

20代で経験した3つの仕事

「苦しみや痛み、絶望のまっただ中にいる方と出会う時、私はいきなり『神はいるよ』とは言いません。私に何かできることがあるとすれば、まずは一緒にいてご飯を食べたりして、とにかくその方のお話を聞くこと。そこから始めますね」。家族と4匹の犬、1匹の猫と暮らす三上充さん(37歳)は東熊本キリスト教会の牧師です。

札幌生まれ、札幌育ちの三上さんは、両親がクリスチャンという家庭で育ちました。札幌を出たのは九州の大学に進学した時。卒業後は熊本の会社に就職し営業職に就いたものの、想像していたサラリーマン生活とは程遠いものでした。「とにかく、売れ、売れ、の日々。そのため心を病んでしまっ、入社後7カ月で辞めてしまいました。私は、それまで挫折を経験したことがなかったんです。この体験で、一生懸命やっても報われないことがあるということを知りました」。その後、福岡で塾講師を2年勤めた後、石川県のキリスト教系の学校で社会科の教師の職を得ました。「塾講師の2年間も自分と向き合う時間でした。その時も私の心の中には『神は共にいてくださる』という安心感があったんです。そのうち、この『共にいてくださる神様』を若い人たちに伝えたいと思うようになり、キリスト教系の学校の教師になりました」。しかし、その仕事も4年で辞めてしまいます。「これは、完全に私のミスでした。学校では学業が最重要かつ最優先事項。それは学校として当たり前のことです。私は教師として教育をしに行くところに、伝道をしに行ってしまったんです」。

Pickup

102名が参加
 サッカー
 フェスティバル



ボルダリングに挑戦
 リフレスおむた
 なんでもやる隊

工夫を凝らして開催
 中央センター前進祭
 ※2面に関連情報



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

1月31日 Sunday

児童福祉教育科 卒業発表会

学習
×
発表

YMCA学院の児童福祉教育科では、保育者を目指す学生たちがともに学び合いながら3年間を過ごします。来年3月卒業予定の22期生の集大成として、1月に卒業発表会を行います。今年のテーマは「糸〜繋ぎ、繋がる22期生の糸〜」。創作劇、合唱、ダンス、ソーラン、太鼓といった演目を通して、自分たちらしさを伝えられるように取り組んでいます。子どもたちも楽しめる発表会です。家族そろってお楽しみください。

一般公演

回1月31日(日)13:00開場 13:30開演
場 熊本市植木文化ホール(熊本市北区植木町岩野238-1)
費 無料 直接会場にお越しください
問 YMCA学院 Tel 096-353-6393



昨年の様子

フェアトレードで世界を幸せに

チョコ
×
国際支援

発展途上国の生産物を正当な価格で取引して、生産者の生活をサポートする取り組み「フェアトレード」。2011年6月、熊本市はアジアで最も早く、また世界では1,000番目となるフェアトレードシティに認定され、来年で10周年を迎えます。YMCAフィランソロピー協会はチョコレート販売などを通してフェアトレードを推進しています。あなたがフェアトレード・チョコレートを選べば、世界はもっとHAPPYに!

販売期間 2021年2月末まで 場 YMCA中央センター・就労支援センター(熊本市中央区新町)、ユーパレス弁天(合志市野々島)
※販売場所によって、取り扱い種類が異なります
問 YMCAフィランソロピー協会事務局
Tel 096-353-6397



新たなチャレンジ YMCA祭

Web
×
チャリティ

YMCAの祭は、ボランティアの協力で運営されるみんなが参加できる地域のお祭りです。今年は新型コロナウイルスの影響により、恒例のバザー出店形式に代え、様々な工夫をして実施します。益金はYMCA年末募金に充てられます。ぜひご参加ください。

前進祭 クラウドファンディング開始

のみの市が好評だった前進祭。12月からは初のクラウドファンディングに挑戦します。7月に被災した豪雨災害(人吉・球磨)で被災した方、コロナウイルスなどで経済的に困窮している方を笑顔にすることが目的です。皆さんのご支援をお待ちしています。

また、前進祭特設サイトでは、これまでの前進祭を振り返る写真、YMCA学院や各プログラムの活動を紹介する動画を公開中です。ぜひご覧ください。

問 YMCA中央センター(熊本市中央区新町) Tel 096-353-6391



ながみね祭 チャリティーオークション

ながみね祭ではインターネットチャリティーオークションを開催。出展品をWebサイトに掲載します。申込フォームからご入力ください。複数入札があった場合は、最高額での入札者が落札者となります。

回第一弾12月7日(月)~19日(土)(予定) ※その他、12月下旬からは、ステイホームを楽しんでいる様子の写真コンテストも開催予定。詳細はWebサイトをご覧ください。
問 ながみねファミリーセンター(熊本市東区長嶺南) Tel 096-385-0676



ウィンターキャンプ2021

日帰りから4泊5日まで、この冬もキャンプが盛りだくさん。お友だちやリーダーと一緒に楽しみましょう。詳細はWebサイトをご覧ください。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインを定め、参加者の健康と安全を最優先に運営します。



キャンプ	日程	会場	年中	年長	小学生	中学生
冬休み完全制覇	日帰り4日間 1月4日(月)~7日(木)	ながみねファミリーセンター	●	●	●	
日帰りスキー体験 キャンプ	日帰り 2月7日(日)	九重森林公園 スキー場		●	●	
エンジョイ スキーキャンプ	2泊3日 1月4日(月)~6日(水)	五ヶ瀬ハイランド スキー場			●	
北海道ダイナミック スキーキャンプ	4泊5日 3月26日(金)~30日(火)	北海道(ニセコビレッジスキーリゾート)			●	●

Amazon「みんなで応援」プログラム

Amazonによるプロジェクト「みんなで応援」プログラムが、11月18日(水)からスタートしました。これはAmazonの「ほしい物リスト」を活用したクリスマスや年末年始のホリデーシーズンのチャリティーキャンペーンです。趣旨に賛同し、Amazonのサイト上で公開された商品リストから商品を購入すると、応援物資としてYMCAに届きます。

2020年は特に、多くの子どもや若者が、豊かな自然体験や、多様な人と出会い交わる成長の機会を失いました。誰もが公



贈られたなわとびを使う園児



平に夢を叶えるチャンスのある地域社会の創造が、今こそ必要です。Amazon「みんなで応援」プログラムを通じて、多くの子どもや若者がYMCAで、笑顔で過ごせるようご協力をよろしくお願いします。

R | E | P | O | R | T

[10月10日⇒ 11月14日]

災害支援

多良木町避難所 2カ月半の運営を終了

7月の熊本豪雨により大きく被災した熊本県球磨郡球磨村の人々が避難生活を続けた同郡多良木町の旧多良木高校避難所。熊本YMCAは球磨村の委託を受け、ピースボート災害支援センターや賛育会、また全国のYMCA等の協力を得ながら、8月半ばからその運営を担いました。10月10日(土)に球磨村渡のグラウンド仮設団地、24日(土)に村外仮設団地の錦町大王原仮設団地の鍵渡しが行われるなど、仮設団地への移行が進み、10月31日(土)をもって避難所の運営を終えました。10月25日(日)には

ワイズメンズクラブの有志とYMCA職員による炊き出しを実施。住民の皆さんからは「豚丼が本当に美味しかった」など、喜びの声が聞かれました。

退所の時には、他の住民やスタッフとの別れを惜しんで涙する人もいました。最後のお一人を避難所から見送るまで「災害関連死を出さない」「新型コロナウイルス感染を出さない」「避難生活を楽しむ」の3つを目標に寄り添う支援を継続することができました。

職員 丸目陽子



キャンプ

子どもたちに自然体験を 文科省推進事業

文部科学省「子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業」を全国のYMCAが受託して取り組む「YMCA自然が子どもを元気にするプロジェクト」の一環として、10月25日(日)に「大自然満喫デイキャンプ」を開催しました。

秋晴れの中、19名の小学生がYMCA阿蘇キャンプに集い、3つのグループに分かれて薪割り・「木いホルダー」作り・焼き板製作のアクティビティをメインに活動しました。薪割りでは、安全なのこぎりとなたの使い方を学び、子どもたちは快音を響かせ

ながら薪をきれいに割っていました。木の枝にバンドやペンを使って表情をつけていく木いホルダー作りや、思い思いにイラストや文字を描く焼き板製作では、個性豊かな作品ができました。

初めて出会ったメンバー同士が、時間が経つにつれ仲良くなり、協力しながら自然とグループの中での役割を果たすシーンが見られるなど、成長を感じることができました。非日常での体験は、子どもたちにとって必要なものだと感じる1日でした。

職員 柊崎翔士



キリスト教

YMCA・YWCAが共に祈る 合同祈禱会を開催

世界YMCA・YWCAでは、毎年11月第2週目の日曜日からの一週間を合同祈禱週として、一つのテーマのもとに、祈りを共にする機会を持っています。今年は「希望の光:実践をともなう霊性によってレジリエンスのあるコミュニティを創る」をテーマに祈りを合わせました。また、最終日である11月14日(土)は、熊本大学YMCA花陵会の会館で熊本のYMCA・YWCAの関係者が会する「合同祈禱会」を開催しました。

熊本草葉町教会牧師の森嶋道さんが「丁寧に生

きる」と題して奨励。「感染症のために普段と違う生活を強いられませんが、その中でも新しいものが生まれる予兆は十分にあるという希望は持つことができます。反面、ネット環境がない人が取り残されるという現状もあります。そのような人を取り残すことなく、一対一で丁寧に対応していくことが必要です」とメッセージが送られました。世界中が閉塞感の中にある今、YWCAとYMCAが団結してパンデミックに対応するため歩みを共にすることを祈りました。

職員 日野充裕



岡 総主事の タラン トン Vol.75



今日を生きる

先日、東西二人の神父の対談をまとめた「希望する力 コロナ時代を生きるあなたへ」(キリスト新聞社)を読んで、コロナ禍で世界中が閉塞感の中にあっても神様の愛に包まれていることを信じ、現状を一つずつ乗り越えていくことが大切であることを学びました。本の中で「昨日は過ぎ去りました。明日はまだ来ていま

せん。わたしたちにあるのは今日だけです。さあ、始めましょう」というマザー・テレサの言葉が紹介されており、過去に縛られず、今しかできないことに全力を注ぎ、私たちが今日をどう生きるにかかっていることを実感しました。

いい夫婦の日(11月22日)にちなんだある保険会社のアンケート調査によると、約2割の人が新型コロナウイルスの影響で夫婦仲が「良くなった」と答え、「悪くなった」と回答した人(6.1%)の3倍超だったそうです。理由は、コミュニケーションや会話の機会が増えたためが6割と最も多く、夫婦円満と答えた人も全体の8割でした。テレワークの浸透で会話や食事の機会が増え、夫婦仲が良くなったと実感した人が増えたのかもしれないと分析しています。マザー・

テレサは「この社会は本末転倒です。誰もが外に幸せを求めて大忙しですが、家族のために時間を使う人は少ないのです。本当の幸せは家庭にあるのに」と言っています。コロナ禍の新しい生き方について考えていきたいものです。

アドベントを迎え、クリスマス待ち望む季節となりました。世界中の困難な状況にあるすべての人に喜びがもたらされるように、そしてその喜びを分かち合う機会を持てるよう祈りを捧げ、平和な世界を待ち望みたいものです。

「父なる神が皆さんを祝福し、その愛で満たし、守ってくださいますように。くじけずに立ち続け、失望せずにいられる力、希望する力を与えてくださいますように」(教皇フランシスコ『パンデミック後の選択』より)

t a l a n t o n



はなれていてもつながっているチャレンジ

第5回 熊本YMCAインターナショナル・チャリティーラン

YMCAインターナショナル・チャリティーランは、障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会をめざし、全国で開催されています。第5回となる熊本大会は新型コロナウイルス感染防止の観

点から、集合での開催を控え、参加賞(中学生以上はマスク)を身につけた参加者が、**#熊本YMCAラン #つながってマスク**を添えてSNSに投稿するリモート大会にチャレンジしました。

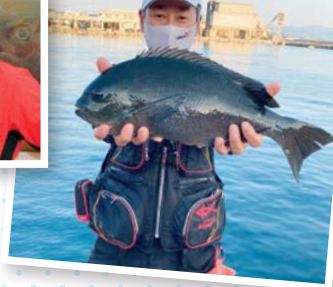


県庁までランニングしました!



はなれていてもつながってマスクをつけて大物にチャレンジ!

パラ競泳アスリートの富田宇宙さんも賛同



八代ワイズメンズクラブはアーケードを歩きました!



ながみねファミリーセンターも子どもたちを応援しています!

熊本YMCAフットボールクラブ 県生涯スポーツ優良団体賞を受賞

熊本YMCAフットボールクラブが、「令和2年度熊本県生涯スポーツ優良団体賞」を受賞しました。熊本YMCAは1967年に九州で初めて民間団体としてサッカー教室を開講。地域の人たちからも支えられながら活動を続け、今回の受賞に至りました。



熊日学童五輪 体操団体・個人総合優勝

11月8日(日)に開催された第46回熊日学童五輪体操競技で熊本YMCA体操チーム男子が6年ぶりの団体優勝、女子が団体2位の成績を収めました。また、横手優磨くんが個人総合で優勝し13年ぶりの快挙を成し遂げました。



わたしと聖句



日本基督教団熊本城東教会
中村英之

ミカ書7章8節

わたしの敵よ、わたしのことで喜ぶな。
たとえ倒れても、わたしは起き上がる。
たとえ闇の中に座っていても
主こそわが光。

たとえ倒れても

この聖書の箇所はいつも私に希望を与えてくれます。「倒れてはだめ」「いつも光の中にいなければいけない」私もこのように思い、自分の力でなんとか歯を喰いしほり頑張ってきた時期がありました。でも私は疲れ果て、ついに倒れました。その時、私は闇の中にある思いでした。私はいつの間にか倒れないよう、闇の中にいないよう頑張ることが信仰だと思っていたのです。しかし、私は起き上がりました。私は神の光の中にいます。それは自分の力ではなく、すべてキリストを死者の中から復活させた神の偉大なる力です。この経験から、たとえ倒れても起き上がりさせてくださる神の力の中にいようと光の中へと移してくださる神の力を信じて待ち望むことこそ信仰だということを、私は知りました。

「コロナ禍」。私たちは今、昨年までとは大きく変わり、これもが予測できなかった中で生活しています。今まで当たり前のようにできていたことが、できなくなりました。私たちの教会でも初めて、クリスマス礼拝後の祝会を取りやめることにしました。先のことはだれも分かりません。今年のように、来以降も私たちに全く予測できないことが起こり続けることは当然のことなのです。

私たちの唯一の希望は、私たちは知ることが出来なくとも、私たちが愛する神がすべてを知っておられることです。来年からではなく、今年のクリスマスから、神が私たちの苦しみと報いてくださり、今まで知ることのできなかった新しい恵みと喜びの時を私たちの間に始めてくださると信じて、待ち望みましょう。

次号は1月・2月合併号として、1月中旬に発行予定です。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)

発行人／岡 成也 編集協力／pros creative
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2020年度基本聖句

テサロニケの信徒への手紙一 5章13節
愛をもって心から尊敬し 互いに平和に過ごしなさい。